

第4章 地域支援活動の実際

1. 2015年度の地域支援活動実績

地域	活動内容	対象者	参加人数 (大学院生)	担当	実施日
鹿児島市	国際交流・講演会	大学院生	(10名)	稲谷	7月6日
種子島	研修会・事例検討会	保育士・幼稚園教諭・ 支援員など	98名	小澤 平田	8月27日
屋久島	研修会・事例検討会	保育士・保育教諭・ 行政職員など	56名	小澤 平田	8月28日
霧島市	発達に関する学習会	保育士・児童発達支援指導員・ 支援員・保護者など	70名 (6名)	小澤	9月4日
鳥栖市	ペアレントメンター 養成研修	保護者	約5名	平田 高橋	9月6・7日 3月2・16日
霧島市	発達に関する学習会	保育士・児童発達支援指導員・ 支援員・保護者など	57名 (5名)	平田	9月14日
鹿児島市	バリテーション ワークショップ	看護師・臨床心理士・ 理学療法士・介護士・ 介護福祉士など	68名 (24名)	稲谷	10月7日
伊佐市	就学相談活動	年長児	9名 (6名)	小澤 平田	10月21・28日 11月5日
霧島市	面接調査 「私のアルバム」作成	高齢者	約15名 (12名)	稲谷	11月7・8日
計	9回	約400名 (大学院生63名)			

2. 各地域における支援活動

(1) 霧島市における支援活動

霧島市こども発達サポートセンターあゆみでは、地域に対する発達障害の普及と啓発のために毎年発達に関する学習会を実施しています。今年度は、地域支援プロジェクトスタッフより小澤と平田が学習会の講師を担当しました。

小澤は「こどもの気になる行動～発達障害と特性（学童期を中心に）～」というテーマで子どもの自己理解を中心に講演を行いました。「親や大人からみた子どもの障害特性についてはよく学ぶ機会があるが、子どもがどう自分をとらえているかということを考えることが新鮮だった」という声が聞かれ、日頃の実践を振り返る機会となったようです。

また、平田は「こどもの気になる行動～不登校・意欲低下など～」というテーマで発達障害と不登校について講演を行いました。どのような特性が不登校と関連していくのか、またどのように理解し、関わればよいかについて、具体的に理解するきっかけとなったようでした。

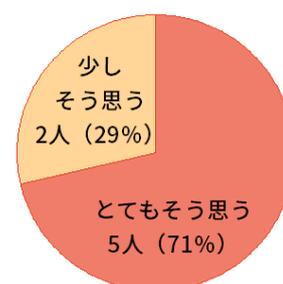
いずれの回でも講義形式だけではなく、グループワークの時間も設け、参加者同士の活発な交流が行われました。グループワークには大学院生も参加し、実際の支援者や保護者の様々な意見を聞く機会となったようです。

学習会に参加した大学院生の感想

- ・ 専門的な言葉を一般の方にわかりやすく伝えることが大切だと感じた。
- ・ どのような方を対象とするかによってこちらの言葉の使い方も随分違うことを実感した。
- ・ (研修の) 事前にどのような打ち合わせややりとりを行うかの重要性を感じた。
- ・ (保護者が) グループワークの中で「先輩の話が聞けてよかった」や「他のお母さんとのつながりが出来てよかった」という言葉が印象的でグループワークの意義を実感した。



学習会と事前学習の様子



発達障害児童への支援の興味・関心は高まりましたか？

第4章

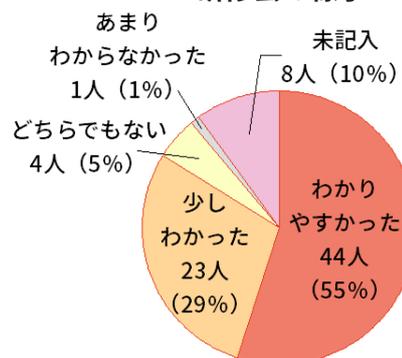
(2) 種子島における支援活動

中種子町の中種子島町立中央公民館にて、小澤・平田が講師として発達障害に関する普及・啓発を目的とした研修会・事例検討会を行いました。事前に担当職員や事例提供者と打ち合わせを行い、研修会企画者や地域のニーズ、事例に関する情報を確認・共有し、研修会へ入りました。

昨年度実施した自閉症に関する研修会の内容を踏まえ、今年度はその他の発達障害も含めた概説と、支援場面での理解と対応について説明を行いました。そしてその後の事例検討会では、参加者から事例提供を受け、実際の対応について検討を行いました。地理的な制約により普段、研修会の機会が少ないことより、今回の研修会が日々の子どもの理解や関わりを振り返る機会となったようでした。



研修会の様子



研修会はわかりやすかったですか？

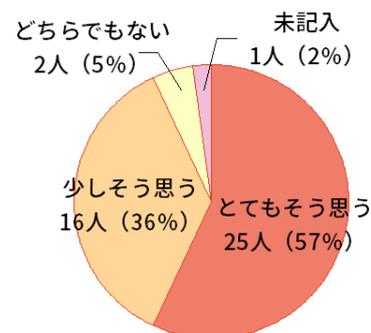
(3) 屋久島における支援活動

屋久島町の屋久島町安房総合センターにて、小澤・平田が講師として発達障害に関する普及・啓発を目的とした研修会・事例検討会を行いました。事例検討用のフォーマットを作成し、事前に作成を依頼し、情報を整理した上で研修会・事例検討会を実施しました。

研修会では、最初に発達障害の理解と支援に関する概説を行いました。その後の事例検討会では、フロアも交えてのディスカッションを行い、他機関・多職種間で活発な意見が交わされました。最後に事例の理解と実際の対応について助言を行いました。さまざまな立場の方が集まり、研修会を受けることでそれぞれの役割や立場を理解し、地域のネットワークを活性化する1つの機会となったようでした。



事例検討会の様子



研修会は支援に役立つと思えましたか？

(4) 鳥栖市における支援活動

今年度も昨年度より引き続き、佐賀県発達障害者支援センター「結」と協働して、佐賀県のペアレントメンター養成研修のパッケージ化のサポートを行いました。

今年度は、より実態に即した研修を行うため、2015年9月6日に広島大学大学院の服巻豊教授と地域支援スタッフのメンバーで「結」を訪問し、昨年度の振り返りと今年度の計画立案を行いました。また9月7日には、発達障害児童の療育であるわくわくキッズの視察を行いました。実際の療育の場面と保護者同士の交流の様子を見学し、昨年度の研修の見直しを行いました。今年度は、1月27日、3月2日、16日の全3回の研修プログラムを実施します。昨年度より幅広い視点を取り入れ、また継続的に佐賀県発達障害者支援センター「結」と協働して取り組むことで、より保護者のニーズに沿った活動の展開を目指します。



「結」のプレイルーム

地域と大学を繋ぐ専門職大学院支援室

地域支援活動の依頼や地域での講演会のお問い合わせなど、下記までお気軽にご連絡ください。

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 専門職大学院支援室

〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21-30

直通電話：099-285-7555 FAX：099-285-3907

E-mail：csp@leh.kagoshima-u.ac.jp

お問い合わせ時間：平日10：00～17：00

URL：http://www.leh.kagoshima-u.ac.jp/kumcp/csp/

3. 研究成果の公表

(1) 学会発表

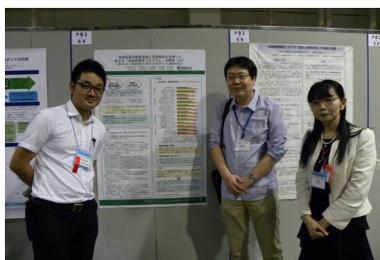
2015年9月、神戸で開催された日本心理臨床学会第34回秋季大会にて、地域支援プロジェクトの研究成果の公表を行いました。

「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発(10)－田中ビネー知能検査Ⅴに関する学習サイクル構築の試み－」との演題で、筆頭の平田を中心にポスター発表を行いました。

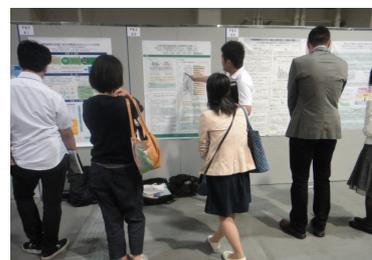
学会発表当日は地域支援に関心のある多くの参加者を集め、活発な意見交換がなされました。

当日のディスカッションの内容

- ・項目を作成するのが大変だったのではないかと思います。実習を普段受け入れる立場としては、大学院生の評価が難しいため、大学院生を評価する際の視点となりその裏づけが行われることは大切と感じた。
- ・初学者が子どもの反応を見たり、記録する余裕がないのはよく分かる。マニュアル通りに実施する、という検査の正確性の部分について、きちんとフィードバックする必要性を結果から感じた。
- ・大学院生の自律的学習として、DVDを自分自身でみるようにすることで、とても自己評価が変わっていくのではないかと？自己評価を行うタイミングにより自己評価が随分変わるように感じた。また自己評価の機会をつくるということに意味があるのではないかと感じた。



研究科スタッフ



ポスター発表の様子

(2) 学術論文

本プロジェクトにおいて作成した、心理検査に関する映像教材を用いた実践型教育に関する研究論文が、下記の通り鹿児島大学心理臨床相談室紀要に掲載されました。

- ・小澤永治・平田祐太郎・土岐篤史・服巻豊（2015）．地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発－映像教材を用いた発達検査に関する実践型教育の開発－ 鹿児島大学心理臨床相談室紀要，11，3-12.